

へいせい動物記⑩「捨て犬」を愛する47歳「脱サラ愛犬家」



ほんのりと日差しが暖かい。犬たちは所在なげ。ここはマイクロバスの中である。バスを上下2段に仕切った板敷のうえで、故あって、飼い主がぐったり昼寝をしている……。

この飼い主は——本多忠祇さん、47歳。千葉県八日市場で捨て犬500匹、捨て猫30匹を引きとって飼っている犬猫大好きオジサンである。

「犬猫を飼い始めたのは11年前から。もともと動物は嫌いで、それまでは何も飼ってなかったんだけど、たまたま2匹の捨て猫を見かけて可哀相になり連れて帰ったんです（本多さん）」

ふと捨て猫を拾う。よくある話だが、本多さんの場合、それからの展開が尋常ではない。「私は捨ててあるのを見ると連れ帰っちゃう性分」だというから、当然、数は増える。増えると都心には住みづらいで、本多さんは渋谷のアパート→横浜→千葉県柏→八日市場の一軒家へと「犬猫を飼うために移り住んだ」。しかし犬猫が500匹もいれば世話が大変。仕事なんかする暇がない。犬をとるか仕事をとるか!? 本多さんは犬を選び、昨年暮れに仕事（家電メーカー営業マン）を辞めた。だから収入はない。けれどエサ代はかきむ。病犬の治療代なんかも含めると一月の経費は約200万円。カンパで賄っているけど、家も土地も担保に入ってて借金は数千万円ですよ」という状態。いや大変だ。「女房なんかもう10回以上実家に帰りましたよ」。そりや当然だ。ともあれ、あれもこれも全て犬（猫）のため。真の愛犬家とはこういうヒ